

目的をChatGPTに伝えて画像生成AIに指示する文章を作ってもらおう

紺野 剛史, 吉岡 隆宏



(a) パターン1



(b) パターン2



(c) パターン3



(d) パターン4

図1 生成された4つのイメージ…本誌2023年7月号「ラズベリー・パイ Picoで1500行 ゼロから作るOS」について、内容を端的に表すイラストをStable Diffusionで生成した。指示はChatGPTと相談して決めた

● 今回の目的と方針

皆さんは、広告などのポスターや、Power Pointでスライドを作成するときなど、簡単にかっこよい絵が描ける能力があればよいと思ったことはないでしょうか。絵を描くのがうまくなくても、今は画像生成AIがあります。しかし自分が意図する絵(画像)を作らせるためには、どんな画像が欲しいのかをAIに的確に指示しなければなりません。

そこで本稿では、自分の目的をChatGPTに伝えて、画像生成AIに指示する文を作ってもらい、それを画像生成AIに入れることで、意図した画像を作成する方法を紹介します。ChatGPTにも画像生成AIにも、無料で使えるものと課金が必要なものがありますが、今回は無料で利用可能なウェブ・サービスの組み合わせで挑戦します。なお、本稿後半では、有料のAPIサービスを利用したプログラム作成も試してみます。

● 今回生成する画像

本稿では、本誌2023年7月号「ラズパイ Picoで1500行 ゼロから作るOS」について、特集内容を端的に表すイメージ・イラストや画像(キー・ビジュアル)の生成に挑戦します。今回、生成した画像を図1に示します。

ChatGPTと画像生成AIの準備

● ChatGPT利用登録

ChatGPTと一緒に作りたい絵の方針を用意していきます。まずはChatGPTと対話できるように準備をします。本稿では開発元のOpenAIが提供するGPT-3.5がベースとなるChatGPTを利用します。マイクロソフトのBingは次期バージョンのGPT-4をベースにしており、無料で利用できますので挑戦されたい方はお試しください。

登録が完了したら、画面右下に「Send a message」と書かれた入力ボックスがあるので自由に質問を入力してみてください。画面は全体的に英語で表示されていますが、その状態でも日本語で質問をすると、日本語で返答してくれます。

▶ 使用上の注意

ChatGPTはインターネット上の情報を元に回答を生成しますが、確率的に最もらしいと予測された結果を回答しているだけです。内容の正確性については確認が必要なこと、2021年までのデータで学習しているのもそれ以降の新しい情報に対応していないことに気をつけてください。